

もくじ

1月総会報告	1
2月例会報告	3
3月例会報告（観椿会）	5
春に	6
老々介護	7
シネコンデビューしました	8
雑感	9
愛媛新聞掲載文	13
お知らせ	15

お花見



1 月総会報告

1月7日（水）11時から2009年度総会を行いました。参加者6名、昨年度の活動についての総括と会計報告、今年度の活動計画など話しあいました。

昨年度の活動として、4月のしだれ桜めぐり、9月の香川県立東山魁夷せとうち美術館観覧、11月の久万高原町甲斐工房訪問など、比較的遠出の活動が多く含まれ、充実していたという意見が多く出ました。また、昨年度の中心的活動として、5月・6月の準備期間を経て7月に実施した東温市中央公民館での「残したい東温市の自然」展は、白形さん、奥川さんの協力を得て、会として久しぶりに外に向けて発信できた企画でした。たった1日限りでしたが、100名近くの来場者があり、大きな意味があったのではないかというのが参加会員共通の認識でした。ある会員からは、「10月始めには仕事で東温市に来られたこの会の初代代表の丸井さんに、10月下旬には研究所を訪ねて楠先生に、11月には工房を訪ねて甲斐さんご夫妻にお会いし、それぞれ素晴らしいお話がうかがえたことがとてもよかった」という感想も出されました。

昨年度は毎回参加者が安定して6名を超えていたのも充実感が得られた理由かもしれません。

会計報告は以下の通りです。（2008年1月～12月）

収入の部（円）		支出の部（円）	
会費	31,000	切手代	9,020
蝶絵葉書売り上げより返金	10,000	用紙代	3,740
泉絵葉書カンパ	300	封筒	198
カンパ	100	宛名シール	2,160
利子	39	コピー代	300
前年度繰越金	102,951	パネル展文房具	6,421
		パネル講師昼食	490
		講師手土産	1,090
		保険代	3,820
		高速道路料金	6,400
		ガソリン代	10,760
合計	144,390	合計	44,399

144,390 - 44,399 = 99,991（次年度繰越金）

2009年度活動計画については、10月に楠先生の研究所を訪れた際、先生から旧松山藩主久松邸の庭から無くなりつつある貴重な椿の話をうかがい、先生の案内で見せていただく約束をしましたが、その予定が3月初めに入ること、先生の持っていらっしゃる貴重な資料を東温市立図書館の資料展示室を借りて展示する件について会員の一人から報告を受け、少しの資料なら鍵の掛るケースに入れて展示可能であるものの、その場合図書館員を中心に動いてもらうことは期待できないことなどを確認しました。

他に、東温市在住のインドネシア人主婦の話を聞く会を実施することなどで、あとは柔軟に対応していくこととなりました。

総会の後は、例年通り新年会となりました。それぞれが持ち寄った料理と飲み物で盛り上がりました。今年度も楽しく、充実した会になるといいですね。

(T・H)



今年もどうぞ
よろしく
お願い致します

2月例会報告

2月28日(土)子規博特別講座・冬季子規塾の情報に参加可能なメンバー6人分をOさんにまとめて申込をしてもらい2月の例会となりました(講師有馬朗人先生「正岡子規と西洋」)講座は午後2時からだったので、午前中砥部町で開催中の「七折梅まつり」・「白形毅史 水彩画展」開催のお知らせも頂いていたので欲張って出かける事になりました。

9時30分砥部町へ出発。前日雨が降ったせいか肌寒かったのですが、味と質のよさで知られる「七折小梅」の産地での春の訪れを告げる祭りらしく早くから多くの見物客が来られていました。紅・濃淡のピンク・淡い白・ろう梅の黄色の梅約30種類、1万6千本が咲き誇り梅の花の香りに包まれた会場を散策しながら、一足早く春の風情を楽しみました。この梅園は観光用として、苗木2000本を植栽、収穫するためのものではなく、梅の花を見に来られ方に喜んでもらうため新しく造成されたそうです。

その中に、「百歳万歳」と表示された老木は『名前は*しらかが*七折梅の元祖です。樹齢百歳に成りました。果肉が柔らかく、梅干し・梅肉・梅エキスに最適です。若い頃は、300kg程の梅が取れていましたが、年老いて去年は60kgの収穫でした。今年も精一杯、花を咲かせていますが、収穫はあまり望めません』と言いつつ、若木に負けんばかりの風格ある白い花を咲かせています。朽ち果てるまでここに居続けてほしい気がしました。

七折の里を後にし、少し早めの昼食を取り、ここで一人のメンバーと別れ松山市内へ。アートギャラリー風で開催中の「白形毅史 水彩画展」で泉や水辺の風景画を観させて頂きました。去年の夏に開催した『残したい東温市の自然展』でも展示提供された作品もありましたが、愛媛県内の四季を描いた風景画31点、透明感があり明るい雰囲気の水彩画に、こちらでも少し早い春を感じさせていただきました。「三か村泉」の風景画に出会って、水温む三か村泉に近々訪れてみようと思っています。

13時30分に次の予定地「子規記念博物館」で、もう一人のメンバーと待ち合わせていたのでギャラリーを後に道後へ。揃って会場へ向かうと既に結構な人数(300名程度)の受講生が座っていて、我が郷土の子規さん人気は大した物だと感じました。メンバーのお知り合いの人や「くらしの学習会」の購読会員の方もチラホラ来られていました。受付で講師のプロフィールが書かれた資料を渡されたただけだったので、話の内容のメモを取りはじめたもののどう整理し報告すれば良いか悩みつつ聞き入ってしまいました。聴講形式の講座だったので、今、私の頭の中に残っている内容としては

*正岡子規が東京帝大に入学するまでの話とその時代の帝大の様子

その時代の学生は、外国人教師が仏・英・独語で授業をするので、語学は現在の学生よりもずっと優秀だったらしい。

*子規はどういった学生時代を過ごしたのか

あまり真面目な学生ではなかったらしい。そのかわりに、随筆を書いたり、投稿をしたり、漱石達との交流、結核を病みながらも積極的に行動していた。

*子規は帝大時代に外国人教師の影響をどう受けたのか

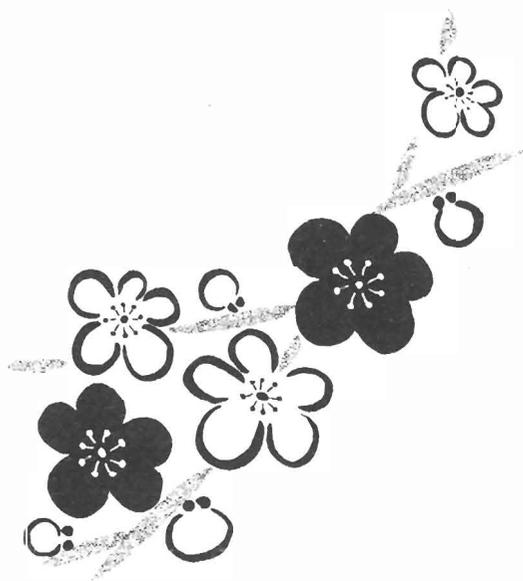
外国人教師は、東洋の詩歌は短く簡単な表現と比べ、西洋の詩の方が優れている説に、東洋の詩歌は余分な言葉はそぎ落とし伝える文化として、東洋と西洋の違いをはっきりと現した。

*子規が新聞社時代に起こしたこと

俳句欄を作り全国に俳句を広め、俳句と絵をコラボさせる等新たな試みを行った。

記憶にある部分的な事しか書き綴れませんでした。太く短い人生を駆け抜けていった子規が、ある程度長生きされていたら日本の文化はずいぶん変わっていたかも知れません。この様な講座に参加できたことに感謝します。

朝から夕刻まで私たちを車で動いて下さったHさん、講座の手続きをし様々な資料を準備して下さったOさん、ありがとうございました。 A. M





3月例会報告（観椿会）

3月5日（木）、楠先生の御案内で椿を愛でる会を催しました。

先ず、先生のご自宅から程近い個人のお宅の椿を垣根越しに拝見しました。広い敷地を埋め尽くす沢山の椿に眼を奪われました。それぞれの椿がバッキンガム宮殿の衛兵の帽子の様な縦長い形に剪定されていましたが、この様に剪定することで限られた土地に、より多くの椿を植えることが出来、樹全体に花を付けることが出来る、上手なやり方だと先生から説明して頂きました。食場バス停前のお宅です。

次に、ちょっと寄り道して、薄墨桜で有名な下伊台町の西法寺を訪れました。ご住職のお名前が薄墨さん。吃驚。西法寺は斉明7年（661年）開基され、天武9年（680年）天武天皇が行幸されたとき、病を得た皇后の為に行った修法祈祷によりみごと快癒、喜ばれた天皇から薄墨の綸旨とともに一本の桜を賜ったことから寺では薄墨桜として今日に伝えています。松山市指定天然記念物で学名ではイヨウスズミといいます。そのほか西法寺には“西法寺の七不思議”～①二体の御本尊 ②二つの梵鐘 ③柱が根に化けた ④不思議な桜 ⑤不思議な梅 ⑥不思議な地名 ⑦不思議な名字～なるものもあるそうで、今年は例年よりかなり早くなりそうな桜の時期がよけいに楽しみになりました。（3月13日宇和島市で、17日松山市も桜の開花を宣言しました。早すぎます。）

いよいよ今回の目的地、東野に向かいます。愛媛県研修所の中にある、かつての松山藩主松平定行公の隠居所であった東野御茶屋跡の近くにその椿はひっそりと、しかし厳とした存在感で佇んでいました。藪椿の原種です。紅と淡い鴉色の花をつけた二本の椿の前には言葉を失ってただ立ち尽くしてしまいました。御茶屋跡は、今はもう礎石を残すのみですが、情緒溢れるほの暗い池や生い茂った木々が往時の名園を偲ばせてくれます。現し世から時空を超えて遠い昔に迷い込んでしまったような世界をしばしの間堪能しました。咲き始めてまだ日が浅い様でしたからもう暫く花の盛りを楽しめそうです。

時折、雨足が強くなる生憎の空模様でしたが参加者全員が夫々の満足感を胸に、先生のご自宅で先生が長年かけて蒐集された膨大な標本を拝見しながら、先生のご自然に対する深い愛情と環境保全に対する熱い想いを伺いました。私は先生にお目にかかるのは二度目ですが、先生のお話は一つ一つが心に沁みわたり時間が経つのを忘れてしまいます。今回、特に私の心に残ったのは“生物多様性を壊して

はならない” “鳥獣害ばかりが報道されるが鳥獣の生息可能地や餌の減少こそが問題” ということでした。お庭に植えられたモクレン科のオガタマノキが二階、三階の外廊下にまで枝を張り、紅紫色の基部に純白の花弁をもつ可憐な花を咲かせていました。顔を近づけるとほのかに甘い香りがします。これも野鳥や蝶の為に植えられたものの一つです。博物館でもあるご自宅内と屋上、さながら鳥や蝶の楽園の様なお庭については「蝶のくる庭」にも詳しく書かれています。

心豊かな半日の余韻に浸りながら、先生のお話をもっと多くの人達に聴いてもらえる様な“場”を作ることができないものか話し合いながら家路につきました。
(K. O.)

春 に

「イタリア世界遺産の旅9日間」というツアーに参加した。イタリアは気候が日本と似ているし、期間中、天気にも恵まれて結構心地良く行って来た。もっともこの心地良さは、家事と仕事から解放されていたことが大きい。

30名の団体でバスを借り切って、ナポリ、ローマ、フィレンツェ、ミラノと、南から北へ移動した。主に歴史的な建造物を見てまわった。ヴァチカンの寺院やコロッセオ、ドゥオモ等、どれも思っていたより巨大で美しかった。空にそびえる寺院の尖塔の頂きに、これ又そびえ立つマリアと聖人達の像、色の違う大理石をモザイク状に組み合わせた壁面、はるか昔によくぞここまでの建物を造ったものだと言をまいた。

これらに囲まれた広場で、当時の人達は何を思ったのだろうか。現代のイタリア人の様子はのぞき見ることはできなかったけれど、ガイドさんによると、やはり日本同様高齢化社会であり、環境問題や失業問題も抱えているとの事だった。

植物にも興味があった。バスの窓から見る限りでは、なだらかな丘陵地は全て牧草地になっていて、道路や境界線にイトスギやカサマツが整然と並んでいただけだった。町の花屋さんの店頭ではほとんど日本と同じものが売られていた。それでもミモザの咲く時期だったので、あちこちで黄色の花が目についた。

バスの窓からぼんやりと「ああ街路樹はプラタナスか、公園にはモクレンとレンギョウがあるわい」等とながめながらウトウトしていた旅も終わってみれば、あっという間だった。不思議なくらい気分が落ちついていた。「気分転換は必要じゃわい」と再確認した。
(K・K)

老々介護

病院へ行っても温泉へ行っても、お年寄りであふれている。二人揃って手を取り合っている方、夫婦で車椅子を押し支え合っている方、一人で杖をつき淋し気に歩く方等、様々な生き方が見えて来る。

私方も、78歳を目の前にした病弱の夫を74歳の私が、何とか支え助け合って生活する毎日である。これが正に老々介護であると思う。

50歳では老々介護を他人事の様になっていたが、あっという間に自分の身に押し寄せて来た。若い間は、子育てに職業に興味にと話し合うこともいっぱいあり、忙しくとも楽しい日々を過ごして来たが、70歳を過ぎたころから、生活に変化もなく話し合うことも少なくなった。話すことと言えば、「うんちが出ん」「足が痛い腰が痛い」弱りゆく体のことばかりである。透析10年の上に昨年は大腸癌に膀胱癌と、3ヶ月の入院で想像もしなかったダメージを受け、車椅子生活からやっと杖で歩ける様になった。

ストレス解消にと、外食やスーパーに時々出かけるが、すり足歩きに時間が掛かる。若い頃陸上の選手で足自慢だったが、今を受け入れなくては・・・と老いゆく姿を哀れに思う。

先日テレビで視聴したのだが「おしっこが出てごめんなさい」「ごはんをこぼして許してね」「同じ話を何回もするけどがまんして聞いてね」とじいさんが、息子や孫に歌で伝えてはあった。

誰も同じだ。いつかは皆同じ様に老いて弱っていくのが人生。それを受け入れ認めていくのが家族であろうと。今の世の中、年を重ね弱って来ると、老人ホームや病院で過ごし、家族に看てもらう人が少なくなっている。若い人や子ども達が年寄りに寄り添い、老人の体や気持ちを理解することが、家族の絆であり、いじめのない社会になるのではなかろうか。

昨夜のテレビでホームレスを路上から脱出させるいろいろな場面が放映されたが、福田さんと言われる方の、一人の人の命を大切にしようと根気強く頑張られる姿に頭が下がり涙が出た。ホームレスも人と人との信頼関係から始まり、結ばれていく絆が、人生を変えることになったよい例だった。自殺者が3万人を超えそうという日本。どうか、頼れる人を作って話し合う事で命を救って下さい。

我が家も、老々介護の後は認々介護が待っているが、お互いに暖かい心で接することにしよう。

(Sa・K)

シネコンデビューしました

家から徒歩約15分の所に『重信シネマサンシャイン』があるのですが、昨年9月まで足を運ぶことがありませんでした。残暑厳しい9月初め、映画館なら涼しいし、宮崎 駿監督作品を映画館で見た事がなく「崖の上のポニョ」が最後になるかもしれないと思い遅まきながら夫婦で散歩がてら出かけました。夫婦50割引（どちらかが50歳以上なら夫婦で2000円）を利用して入館。上映前、有り難い事に5作品程度の予告編の中に興味の湧く作品があり、来週から上映される作品を見る予定ができました。これを始まりに9月～2月の6か月で7本ほぼ月一回の割合で出かけていました。

その中で二度同じ作品を見ています。「おくりびと」、9月に見てとても心に残ったのです。ストーリーはクスッと笑えるシーン・心温まるシーン・胸が熱くなるシーンをうまく取り混ぜラストシーンまで飽きさせず、撮影場所となった山形県庄内地方の四季の風景と主人公がチェロ奏者の設定なので全編チェロ中心の音楽（久石譲作曲の主題歌が心に響いてこの曲が流れると映像が思い浮かぶ位ピッタリでステキな曲です）が効果的な役割を果たし、観客を魅了しています。もう一度行こうと思いつつ年が明け、1月末からアンコール上映が始まったのを機に出かけました。前回よりも細かい部分まで深く見られたように感じました。ストーリーの展開が分かっている分、クスッと笑う箇所が少し早めに反応する人は私達だけではなかった様でした。その後、アカデミー賞外国語映画部門にノミネートされ受賞という名誉は日本中を沸かせました。アンコール上映は延長され（3/22迄）すでにDVDも発売されましたが、映画館での映像と音声に包まれる空間を味わってしまうと「やっぱり映画は映画館で見ると違うよ」と映画好きの友人に言われた事が実感できました。

それと、子供が巣立った後の夫婦二人の生活を退屈な日々にしなない為にも共通の楽しみの一つになりました。私は車の運転をしないので普段から夫と出かける事は日常ですが、ご主人の退職後の夫婦の在り方に不安を抱いている友人の話を意外なほど聞きます。私は新聞記事で知ったのですが、「60才のラブレター」の本ご存じですか？中高年の男女を対象に、伴侶への感謝の気持ちしたためたはがきを募集、受賞作などを毎年本にまとめて出版、販売総部数42万を超える人気の本で、5月には受賞作品を原案にした映画も公開されるそうです。何かのヒントになればと紹介してみました。

ちなみに、次回見る予定の映画は「マリー-世界一おバカな犬が教えてくれたこと」です。

A. M

雑 感

何だかおかしなお天気が続いています。それでなくても腹立たしいニュースばかりの毎日、よけいに苛々が募ります。

昨年末のノーベル賞での日本の快挙に続き、今春、米アカデミー賞でも日本の二作品が外国語映画賞と短編アニメーション賞に輝きました。嬉しいことです。でもそんなうれしいニュースが続いてもすっきり晴々気分にはなれないでいます。世の中はパンドラの箱が開いてしまったかのような様相です。

与野党の大物議員への違法献金疑惑が連日報道されています。報道される“政治とカネ”なんて氷山の一角にしか過ぎないと思ってしまう。悲しいことです。集金能力や天下り先の多さが政治家・官僚としての値打ちであると信じている古い体質の人たちがまだまだ多いのでしょう。かつて大国の証しであるかの様に思われていた植民地支配が現代では、“侵略”とか“搾取”と非難されている様に、政治家や官僚が夫々の職権や既得権益を“カネ”に結び付けることは恥ずべきことだと一人一人が認識する時が来るのでしょうか？ 残念ながらそうは思えません。何故なら現代でも“自由貿易”と見せかけた原産国への不当な扱いは現存しています。同じようにあの手この手を考えるだけなのでしょう。

昨年来の百年に一度といわれる世界同時不況は収束の気配さえ見せず、アメリカの良心の象徴として就任したオバマ大統領が様々な政策を提示しても経済は一向に反応しないでいます。わが国では二次補正予算関連法案が可決され、不評だった二兆円規模の定額給付金が現実のものとなり、高速道路は普通車以下のETC（自動料金収受システム）装着車に限り土日祝日は一部の大都市圏を除き、料金は距離に関係なく上限1,000円だそうです。但し、システムの調整が完了するまでの一カ月位は大都市圏通過前後で二重に徴収されるなどの不備もあるようです。

古くなった橋梁の保守点検にさえ予算が組めない自治体が多いとも聞きます。地方はどんどん疲弊しています。二兆円、もっと有効な使い道があった筈だと今でも思います。雇用を創出する為に、地元の企業の地元の人間による本当に必要な公共事業を考えて欲しいのです。これ以上自動車の為の道路は要りません。子供やお年寄りが安心して歩ける歩道こそを整備してほしいと思います。歩道のない道路があまりにも多すぎます。学校や病院の耐震工事も必要です。国が補助金を出したことによって作ってしまった沢山の“ハコモノ”の有効な使い方も示し

てほしいものです。

高速道路料金値下げも何故 ETC 装着車のそれも普通車以下だけなのでしょう？ おまけに ETC 車載器を新規に装着する場合には助成金まで出るといいます。どうして国はそこまで ETC 装着にこだわり、推進したいのでしょうか？不思議な感じがします。

複雑で分かりにくい雇用形態の中で、今年の今頃は“最高の経常利益”とか“最大の内部留保金”と言われていた大企業でさえ、職場を追われる人たちが増えています。下請け・孫請けの中小・零細企業には倒産するところも少なくありません。「自助自立が第一」「選り好みし過ぎ」「自己責任」との声も聞かれます。しかし少数であったとしても世の中には頑張りたくても頑張れない人、いくら頑張っても形にならない人はいます。国民一人一人の安心、安全を守るべき行政機関は、その人たちへの安全網の整備を第一義に考えてほしいと思います。

ついつい高齢者は“昔の貧しさはこんなものではなかった”と“耐乏自慢”をしてしまい勝ちです。私が子供だった昭和 20 年代はごく一部を除き世の中のほとんどが貧しく、車もテレビも冷蔵庫も無いのが当たり前でした。しかし幸せなことに、貧しくても心豊かに暮らす知恵を持った大人たちに守られていました。今は違います。“物”が溢れ、物を手に入れる為のお金が無くては幸せを感じる事が出来ない世の中になってしまっています。その為、働くことが可能な年齢の人たちの殆どが家庭から職場へと居場所を移してしまいました。大人たちは自分達が味わった苦勞を子供達にはさせたくないと願い教育熱が高まりました。為政者も納税者が増加することを是としたのでしょう。女性の地位向上、男女共同参画型社会を謳い文句に乳幼児、病人、障害者、高齢者には夫々の施設を準備してきました。しかし、真の男女共同参画型社会には程遠く、かえって女性の存在感は薄れ、疲れた表情の人が増え、家族の絆さえ危うくなってしまっている現実があります。家庭の中に弱い立場の人が当たり前と一緒に生活して生と死を共有し、自分が特別の存在でいられる環境を創ってこそ、社会の中の弱い立場にある人を当たり前にも認めることのできる人格が形成されると思えてなりません。私達は今、過渡期の混迷の中でもがいています。

不況を理由に、経営者からワークシェアリング（仕事の分かちあい）を、との声があがっています。オランダでもかつて今の日本と同じような状況に陥った時

期があったそうです。それが1982年、ワッセナー合意（①労働組合は賃金抑制に協力 ②経営者は雇用の維持と就労時間の短縮に務める ③政府は減税と財政支出の抑制を図り国際競争力を高めるための企業投資を活発化、雇用の増加を達成）によりワークシェアリングに成功し、現在は失業率も激減し夫婦2人で1.5人分働き0.5人分は家族の為の時間にまわすことのできる余裕ある生活を楽しんでいるといます。先進国の中でオランダの子供が一番幸せを感じているという報告もあります。このようにワークシェアリングが成功したのは“Let us go Dutch 割り勘にしよう”というオランダ人気質に因るところも大きいと思いますが、“同一労働は同一時給”により待遇面の差別を撤廃し“フルタイムかパートタイムかは労働者の請求により自由に変更が出来る”ことによる勤務形態の多様化を認める法律が整備されているからだと考えます。また、失業した場合賃金の70%が3年間保証され、派遣業者には次の新しい仕事を見つけることが義務付けられています。不況時に経営者側の緊急避難の為のワークシェアリングではなく、安全網を整備した上で男女の別なく一人一人が幸せな働き方を追求する方法としてのワークシェアリングがわが国にも根付くことを切望します。

苛々が吹き飛ぶような記事に出会いました。ノーベル賞受賞者のお一人増川敏英先生は加藤周一氏ら9人の知識人が呼びかけ人となり設立した「九条の会」に賛同し、2005年3月『九条の会』のアピールを広げる科学者、研究者の会が発足すると呼びかけ人となりました。ノーベル賞受賞講演で「自国が引き起こした無謀で悲惨な戦争」という表題で太平洋戦争に言及もされました。「科学そのものは中立でも、物理学の支えなしには核兵器開発ができないように、政治が悪ければ研究成果は人々を殺傷することに利用される。」「まだおしりに火がついている状態とは思わないが、本当に九条が危ないという政治状況になれば軸足を研究から運動の方に移す」「人間はとんでもない過ちを犯すが最後は理性的で100年単位で見れば進歩してきたと信じている。その原動力はいま起きている不都合なこと、悪いことをみんな認識しあうことだ。」（朝日新聞2.1）「改憲派はなぜ憲法を変えたがるのか。ぼくは物理屋。因果律で考える癖がある。『なぜ』と。彼らは条文に不備があるからと言っているが、解釈改憲で自衛隊がソマリアまで行く時代。条文不備のせいじゃない。九条があったのでは出来ないことをやりたいからに違いない。つまり自由に兵器を使うということです。」幼いころ名

古屋で空襲に遭った経験を振り返り、「私は、子にも孫にもあんな思いはさせたくない。国家が国家の名のもとに始める戦争は嫌です。」戦争は突然起きるわけではないと訴え「最終的には理性の問題です。一つのかげらを見た時に、人間としてそこから何を想像できるか。鋭い目を持てば戦争の予兆は見える。その時、反応しなければならない。」（朝日新聞3.9）素敵です。

偶然、NHK「今をどう生きる“知の巨人”加藤周一が残した言葉」を観ました。2008年の秋葉原無差別殺傷事件など最近のおぞましい事件を評して「信じられない在り得ない事件とは思わない。20世紀から21世紀に積み残した閉塞感があり、下の方に淀んでいたものの絶望的な爆発だ。2001年のアメリカでの同時多発テロ以来世界中で自由な行動を抑圧する雰囲気蔓延している。組織力が増大し個人の影響力が低下してきている。専門分化が進み人間的に総合的に指示できる人が減っている。日本は明治維新以降、非人格化、非個人化、非個性化という代価を払いその犠牲の上に発展してきた。今こそ ①事実認識（どうなっているか） ②だからどうするのか 人間的感覚による世界の解釈の仕方、人間らしさを世界の中に再生させることを意識し、闘うべき相手は何なのかを知ることが大切」と述べておられました。深い感銘を頂きました。重い言葉ばかりです。ただ、最後の30分しか観ることが出来なかったことが非常に残念です。

夫が退職し、映画館に出かける様になりました。1月は“チェ 28歳の革命” 2月は“チェ 39歳 別れの手紙”。ゲバラには共感できます。世界で起きていることを自分の住む世界の論理だけで判断してはいけないということも痛感しました。それでも私はゲバラの戦闘よりガンディーの行動を支持したいのです。3月は“チェンジリング”。腐敗した組織を守るために壊れてしまった心の怖さと、そんな組織にあってもたった一人にでも良心が残っていれば解決への道は開けることに救いがありました。

(K.O.)

法人市民税 36.7%減

東温市 一般会計115億7000万円

東温市は二十四日、三月定例議会に提案する二〇〇九年度当初予算など三十議案を発表した。一般会計は百十五億七千万円（前年度比4・0%増）、特別、企業会計を合わせた総額は二百二十七億五千五百五十五万円（2・9%増）。

歳出は、障害者福祉費や児童手当、生活保護費の増額などで義務的経費が前年度比2・6%増となった。歳入は景気悪化の影響を受け、法人市民税が一億九十五万円▽川内中学校

千八百八十七万円減（36・7%減）となるなど、市税は前年度から二億百五十七万円（5・2%）減って三十六億九千五百九十六万円となった。市債を八億四千四百万円（81・8%増）発行するなどして対応する。

一般会計の主な事業は、市リサイクルセンター（則之内）の旧ごみ焼却施設撤去工事一億三千七百七十一万円▽樋口団地二棟のエレベーター設置六千三百九十五万円▽川内中学校舎改築工事実施設計二千五百二十万円など。新規事業では、高規格救急車導入三千六百万円▽上林、則之内地区の林道整備など千七百二十八万円▽小中学校など公共施設七十四カ所の緊急地震速報通報システム整備三百八十万円など。

〇八年度一般会計補正予算案には五億四千六十一万円（累計百一十七億七十二万円、前年同期比1・3%減）を計上。主な内容は、市内二小学校の体育館、四小学校の校舎耐震補強改修工事などに五億八千二百六十八万円。

17課を14課に再編

東温市 機構改革案 子育て支援室新設

などを担当する。

東温市は二十四日、二〇〇九年度実施予定の機構改革案を発表した。現在の三部十七課を三部十四課に再編する内容で、関係条例を三月市議会に上程、可決されれば四月一日から実施する。

市によると、新規採用者抑制に伴う業務効率化などが目的で「住民サービス」の低下を招かないよう対応した「（総務課）として

東温市は二十四日、二〇〇九年度実施予定の機構改革案を発表した。現在の三部十七課を三部十四課に再編する内容で、関係条例を三月市議会に上程、可決されれば四月一日から実施する。

市によると、新規採用者抑制に伴う業務効率化などが目的で「住民サービス」の低下を招かないよう対応した「（総務課）として

主な変更は、市民課と生活環境課を市民環境課（新設）に統合▽建設課と都市計画課をまちづくり課（同）に統合▽介護福祉課を廃止し業務を社会福祉課と保険年金課に振り分けーなど。

また、育児支援強化策として社会福祉課に子育て支援室を新設。乳幼児の健康相談や保育所の入園の窓口対応

「60歳のラブレター」根強い人気

2009年2月16日 への新聞

伴侶への思い切々

中高年の男女を対象に、伴侶への感謝の気持ちをしたためた一枚のはがきを募集する「60歳のラブレター」が根強い人気だ。2009年で第9回。受賞作などは毎年、本にまとめて出版され、販売総部数は42万を超える。5月には受賞作品を原案にした映画も公開される。



これまでに出版された60歳のラブレター(全9冊)(エヌエス社)

企画は住友信託銀行がバブル崩壊後の景気低迷の中で、高度経済成長期を支えてきた世代の定年退職後の暮らしを応援する意味も込めて始めた。応募資格は五十歳以上で、八回までに計約八万六千通が寄せられた。毎回、約二十五人に大賞など各賞が贈られるが、審査員による選定の前、事務局の同信託銀行

「涙があかぬ読み進められないときも。情景が浮かぶような、ストーリーに伝えないものが心を打つ。事務局はまた五十代にならない世代が中心だが、自分が六十歳になつたときこんな夫婦関係でいられるかな、そんなことを言えるといいなあと若い職員もいます」とチーム長の江面文朗さん。

受賞作本・映画に 歳月経た言葉心打つ

第一回から審査員を務めるエッセイストの佐川芳枝さんをはじめ「心の真実や叫びが感じられる。長い年月を共にした夫婦はお互いに何か語り合いたいと思っている」と根強い人気の理由を分析する。

昨年の第八回大賞受賞者は千葉市の宮川紀之さん。四十年前の新婚時代、会社の仕事を優先し、帰宅したとき妻の千恵子さん(左)の目尻に涙の跡があったのに「何となく抱き締めて上げればよくなっていくんだ」と突きた。「と結んでいる。鮮魚店夫妻など、田塊世



第8回の大賞を受賞した宮川紀之さん(手前)。妻の千恵子さんと共通の趣味の合唱を楽しむ

「涙があかぬ読み進められないときも。情景が浮かぶような、ストーリーに伝えないものが心を打つ。事務局はまた五十代にならない世代が中心だが、自分が六十歳になつたときこんな夫婦関係でいられるかな、そんなことを言えるといいなあと若い職員もいます」とチーム長の江面文朗さん。



映画「60歳のラブレター」の一場面。大手建設会社の元エリート社員を演じる中村雅俊さん(右)と妻役の原田美枝子さん

受賞後の夫妻の暮らしがテレビの特集番組になつて紹介され、今は共通の趣味である合唱を楽しむ。「この企画をきっかけに再スタートが切れました」と千恵子さん。受賞作品は朗読など舞台で取り上げられることが度々あったが、田塊世代が大賞退職するを機に松が映画「60歳のラブレター」の製作に取り組んだ。大手建設会社のエリート特微的な三つの夫婦関係を設定、それぞれのカップルが引き起こす波紋を感動的に描く。三木和男プロデューサーは「長年連れ添った夫婦の真実が一枚のはがきに描かれていた。心の機微を映像にし、感動につながる。若いカップルにも夫婦っていいね」と思つてものをえるような映画を作りたいと考へたと話している。

ユニーク 団塊の教科書、「学びやぶっ」創刊

明治書院は4月から、団塊世代向けに「学びやぶっ」シリーズを創刊する。「さんすう」として「知的

な人の馬術術」、「せいかつ」として「欧州スイーツ紀行」などユニークな「教科、分けが特徴。新刊に連

動した講演会など課外授業も企画していく。

好奇心旺盛で時間に余裕のある層を書店に呼び戻すのが狙い。7月まで月5冊、計20点発行した後、年間20点ペースで刊行。1260円から。



4月7日（火）午後12時半 三越アトリウムコートに集合
昼食（レストラン門田）後 庚申庵を見学します
参加希望の方は、林まで4月5日までにご連絡下さい。
皆様のご参加をお待ちしております。

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2,000円／年 購読会員 1,000円／年
振込先口座番号（郵便局） くらしの学習会 01610-5-21026

問合せ先 TEL/FAX 089-964-6956

E-mail: kt-hayashi@nifty.com